

## 令和2年度第3回高知県子どもの環境づくり推進委員会 会議の概要

### 1 日程及び議題

日時：令和2年11月1日（日） 14:00～15:45

場所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

議題：（1）高知県子ども条例及び子どもの環境づくり推進計画について

※学校安全対策課より「自転車ヘルメット着用推進事業」の説明

（2）子ども条例フォーラムの開催について

### 2 会議の概要（委員からの主な意見）

事務局説明：（1）高知県子ども条例及び子どもの環境づくり推進計画について  
資 料：【資料1】～【資料5】

●事務局から「高知県子ども条例」及び「子どもの環境づくり推進計画」の概要を説明

<No.117 子どもの居場所づくり推進事業>

○子ども食堂に来られているお子さんの中には、厳しい環境にいる方もいらっしゃるのでは、スクールソーシャルワーカーが関わることはとても良い。今後も子ども食堂を増やしていく中で、そういったケアも充実するような活動になれば良い。（委員）

○今年度、子ども食堂は新型コロナウイルス感染症の関係で様々な苦勞をしていると思うが、現状を教えてください。（委員）

⇒春先はコロナの影響もあり、多くの子ども食堂は休止を余儀なくされる状況であった。その後、9月末頃には、県に登録されている子ども食堂の6割程度が再開したが、感染症を考慮して開設場所や食事の提供方法等について工夫しながら運営しているという状況である。

県としては、新しい生活様式に則り、例えば料理を小分けにして提供するためのお皿などの購入に係る経費を補助の対象に加えるなど、子ども食堂の運営が滞りなく行えるよう対応し、支援している状況である。（事務局）

○各子ども食堂ではこの機会に様々な方策を検討しており、大学や専門学校等での食材提供や、フードパントリー（様々な理由で生活に困っている人々が食料品などを気軽に受け取れる拠点づくり）、親子への食育を企図した弁当配達などの取組がなされている。（委員）

○子ども食堂について、課題に感じていることが2つある。一つは、本来、来てほしい子どもが来ないということ。もう一つは、子ども食堂へせっかく来ているのにあまり食べない子がいること。そこで、児童委員等に子ども食堂に関わっていただき、課題のある子ども達への支援や、行政とつなぐ仕組みがあれば良いと考えている。(委員)

○食材の提供や金銭的な支援、場所の支援などができる方と子ども食堂が上手くつながる事ができれば良いと考えている。そのコーディネートをしていただければ、いくらでも協力する。(委員)

#### <No.40 感性を育む教育推進費 >

○2020 こうち総文ブレ大会では、高校生というのは、与えられた環境があればどんなことでも大人よりも優れた発想力があって、様々な活動ができる能力を持っていると感じた。本大会は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、予定どおりの開催ができなかったが、子どもたちの財産になる大会だった。今後、県の高校文化祭もあるが、子どもたちの能力を発揮できるよう、子どもの環境づくりの取組の中で育んでいただけたらと思う。(委員)

#### <No.79 ~No.87 防災教育>

○子どもが参加して防災を一緒に考える取組は素晴らしい。小学校、中学校の時に学び、身に付け、大人になった時に子どもに教えるという流れが生まれる。また、子どもたちが高齢者や障害を持つ方を子どもたちが支援する形で行う防災教育は、日常生活の中でも活かすことができる。こうした教育の推進は必要であると考えている。(委員)

事務局説明：「自転車ヘルメット着用推進事業」(学校安全対策課) 資 料：【資料6】
--

#### ●学校安全対策課より「自転車ヘルメット着用推進事業」について概要を説明

○講演会を学校等で開催して学生自身に身近に触れてもらうことができれば、もっと自分事として捉えやすくなると思った。また、ただ講演を聞いて終わりではなく、自分たちにできることは何かを考えるディスカッションの場も作った方が良いと思う。(委員)

○ヘルメットの着用を校則で規定することになると、学校によってヘルメットの色など細かな規定が異なることとなるため、県全体で規定を統一した方が良いと思う。(委員)

○愛媛県はヘルメットの着用が普及している。ヘルメット着用を義務化すべきとの声もあるが、なぜ高知県は義務ではなく努力義務なのか。(委員)

⇒愛媛県、高知県共に条例へのヘルメットの位置づけ自体にはさほど差はないと理解している。愛媛県は条例ができてから数年を経て今のような義務化の形になっているとお聞きしている。まず高校生たちが話し合ってみんなでかぶろうよという機運が高まり、それから保護者の皆さんも大切な子どもにかぶせようという機運が高まったことから、そのような形になったと理解している。高知県も、これからどのようにしていくか検討しているところである。

(学校安全対策課)

○高知南中学校・高校で行った「交通安全自転車パレード」を他の高校も実演していけば、もっと着用する人が増えると思う。(委員)

○2 ページの「かぶっとこ通信」にある講話やヘルメット試着の取組を、学校などで実施したらより近くに感じられると思う。(委員)

○自転車で30分以上かけて通学する人が沢山いるので、もっと身近にこういった活動をしていくことが大事と思った。(委員)

⇒正におっしゃっていただいたことを、これから進めていこうとしている。それぞれの学校で、生徒自身が何ができるかを主体的に考えていただきたいと思う。その上で、自分たちの学校でこんなことをやりたいので是非協力してほしいということがあれば、いつでも私どもにおっしゃっていただければと思う。まず学校でそのような機運を高めていただきたい。県では、講演等の他に、学校の入口などにのぼり旗を持って挨拶をする「啓発隊」の活動を行っている。(学校安全対策課)

○命は子どもだけでなく大人も守らないといけないものであるため、大人も子供もヘルメットの着用を義務化していくために、まず高知県全員がかぶっていきましょうという形で取り組んでいくと、実はゴールが近いんじゃないかなと思う。(委員)

○学校と保護者がお互いに責任転嫁し合っており、物事が進んでない。

その中で、三里中校区では中学生のヘルメット着用率が100%となっている。自転車通学について検討を進める中で、ヘルメットの着用を要望した少数の保護者の意見に学校がきちんと対応して、自転車乗車時のルール等を定め、各家庭に配布した。それを読んだ保護者が子ども達に着用するよう指導して、今のような形となった。学校は、保護者の力を信じて自然に広がっていくよ

うに働きかければ良いのではないかと思う。

また、子どもたちの命を守ることが一番だと思うので、そのスタートラインに立つ意味でも、ヘルメットに対して高校生自身にも考えてほしい。

学校で生徒会活動をしている子どもたちは、学校の代表である以上、模範となるためにヘルメットはかぶるべきだと思う。学校としてもそういった環境が整うよう取り組んでいただいて、大人も親も子どもも一緒に成長して、自分の命の大事さを学ぶという機会を作っていただきたいと思う。(委員)

○こうち子ども未来フォーラムについて、「ヘルメットの着用」をディスカッションテーマの一つにしてはどうか。(委員)

⇒来年のフォーラムのディスカッションテーマとして設定する方向で調整したい。(事務局)

事務局説明：(2) 子ども条例フォーラムの開催について 資 料：【資料7】～【資料8】
--

●今年度の開催内容等について事務局から説明

⇒委員からの意見なし